

# 平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

## I 自己評価

岐阜県立東濃フロンティア高等学校

学校番号

6507

1 学校教育目標		一人一人の個性を大切にし、主体的に生きる人間の育成に努める。 1 真理の探究 ・ ・ 創造力豊かな自ら学ぶ生徒の育成      2 人格の陶冶 ・ ・ 他を思いやる心豊かな生徒の育成 3 体力の増進 ・ ・ 心身ともに健康でたくましい生徒の育成				
2 現状の分析		○ 「生徒及び保護者アンケート」の結果から、「三部制・単位制の特色を生かし、学び直しができ、生徒の個性や進路にあった授業選択ができる学校づくり」に対して、保護者の9割以上が肯定的に回答している。生徒の「入学して良かった・ほぼ良かった」という回答が昨年より3%増加し88%以上になり、入学後の満足度は高い。また、教職員の学習指導や生徒指導、教育相談に対しても85%を超える生徒が肯定的に回答している。しかし、これらの結果は入学後、ほぼ順調に学校生活を続けている生徒とその保護者の回答であり、その背後には残念ながら退学したり、休学したりした生徒の声が入っていないことを忘れてはいけない。 ここ数年の傾向として、中学校時に不登校を経験している入学生は50%を超えており、発達障がいのある生徒、または、その疑いのある生徒も増えている。それ故、多数の学校不適応生徒一人一人の自己肯定感や自己有用感を高め卒業後の社会生活につながる学力の定着が重要であると考え、平成27年度まで取り組んだステップアップカリキュラム研究指定事業を基にした授業のユニバーサルデザイン化により一層重点をおいた授業改善に全校体制で取り組んでいる。また、ソーシャルスキルの向上を図るためにソーシャルスキルトレーニング（SST）を取り入れた授業を計画的に行っている。 ▲ 服装や頭髮の乱れは改善されつつあるが、依然として学ぶ意欲や進路に対する意識、集団に対する帰属意識の低い生徒が見られる。				
3 学校の抱える課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な学習の定着を図り、学ぶ意欲を育て、生徒一人一人の進路実現を果たすこと。</li> <li>・ 生徒に達成感や充実感、自己肯定感及び自己有用感を与える指導と支援を行うこと。</li> <li>・ 生徒のソーシャルスキルを高めると共に幅広い社会性を養うこと。</li> </ul>				
4 今年度の具体的な重点目標		1 基礎学力の確実な定着をめざす。自ら学ぶ主体的な学習態度と、自ら進んで人生を切り拓く意欲的な生活態度の育成に努める。基礎学力に加え進路決定力の育成のための校内体制づくりを継続的課題とする。 2 個を大切にす指導を基に、モラル・マナーを尊重する態度を培い、自主・自立・自律の精神を養う。 3 キャリア支援の充実を図る。「総合的な学習の時間」を通して、望ましい勤労観・職業観と社会性を育成し、適切な進路選択ができる資質を養う。また、ゼミ活動や学校行事、部活動を通して、連帯感や帰属意識の向上を図る。				
年 度 目 標		年 度 末 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・ C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
教 務	①基礎・基本の定着と主体的な学習態度の育成をめざした学習指導の推進	①年2回の公開授業週間を利用し教材研究、教科会での振り返りによる授業改善 ①年2回「授業に関するアンケート」実施 ①調査情報分析（欠点者数の推移や再試結果等）	①協働的学習を取り入れたテーマをもとに年2回の公開授業週間を設定。時間割上、教科内での参観が難しい場合もあるが、互いの授業を参観し合うことで、生徒理解や授業改善に繋げることができた。 ①基礎・基本の定着や進路実現に向けた家庭学習については、十分に推進を図ることができなかった。	B	▲家庭学習推進など、継続的に実施していくべきものが多々ある。導入当時の意義を再度見直し、その意味を職員で共有していき、現生徒の実態に合わせ効果的に実施していく必要がある。 ▲授業については、履修条件を周知徹底することでマナーや取り組み状況について改善が見られた。安心して学べる学校になるべく指導方法をさらに検討していきたい。 ▲業務の引き継ぎなど分掌内	B
	②特色と魅力ある三部制・単位制・少人数授業の効果的実践	②生徒及び保護者、公開授業参観者へのアンケート ②年2回「授業に関するアンケート」実施	②保護者・公開授業参観者アンケートによると、本校の少人数授業や少人数クラスに対する期待や満足度は高く、その教育的な効果を実感する感想が多く寄せられた。 ②授業に関するアンケートでは、7月	A		

			と12月に実施した。相対的に、生徒の授業への取り組み状況の改善が見られた。		外でうまく連携をとり業務の負担軽減を図ってきたい。	
	③教員の資質を高める研修の推進	③教科会での現状分析 ③年2回の公開授業週間を利用し、教科にとらわれない相互の授業参観 ③年2回「授業に関するアンケート」実施	③生徒情報を職員で共有することで、生徒理解を深め、より効果的な指導に繋げることができた。	B		
進路	①CT(チャレンジタイム)を活用してキャリア教育を実施する。	①生徒及び保護者等のアンケート	①1・2年次合同の進路講演会、2年次はインターンシップ、キャリアガイダンス、3年次は進路決定まではキャリアガイダンス、面接練習を実施した。	B	○2・3年次と連携した進路活動は好評で、進路を考える良い機会となった。 ○キャリア教育アドバイザーによる丁寧な支援があった。	B
	②生徒一人一人に合った適切な進学、就職指導を実施する。	②進路実現状況 ②就職内定率	②2年次生の全員に対し、年末から面接指導を行った。また、3年次生に対しては、全員に基礎力・常識力定着のため問題集を用いての学習、面接練習を行った。	A	▲3年次生の面接指導の無断欠席者は増加した。時間、約束を守るという最低限のルールを身に付けさせたい。	
	③進路指導に関わる情報を収集し、教科・年次・分掌等へ発信することで学校と外部のパイプ役を務める。	③生徒及び保護者等のアンケート	③キャリア教育の全体計画及び年間指導計画を作成し、それに基づき各年次、分掌と連携し、キャリア教育を実践した。	B	▲1年次生に対する進路指導が不十分であった。	
生徒指導	①基本的な生活習慣・規範意識の育成 ・社会生活の基盤である生活習慣の確立と、高校生として守るべきルールやマナーを理解し遵守する姿勢を育成する。また、身だしなみを整えさせる。	①生徒・保護者アンケート ①問題行動の状況	①機会あるごとに、集会等で生活指導を実施した。校外指導(土岐市駅前)・校内指導も実施でき問題行動は減少した。 ①身だしなみについては、場に応じて服装を考えることを集会等で声かけし、意識できる生徒も増えてきた。	B	○校内、校外とも問題行動の件数は徐々に減少し、生徒の規範意識は少しずつ育っている。 ▲中学生時代に不登校や保健室登校であった生徒が学び直しを求めて入学してくるが、生徒間でコミュニケーションがうまく図れず、人間関係を築くことができなかったり、あるきっかけで再び不登校となったり、進路変更をしたりするケースが目立った。	B
	②豊かな人間性の育成 ・内面からの変化を求め、自ら進んで取り組む事のできる自己指導能力の育成を図る。	②生徒・保護者アンケート ②問題行動の状況	②生徒会活動を活発化して、挨拶運動を展開させるなど、ルールやマナーアップを図れるよう仕向けることができた。	B	○ボランティア活動への積極的な参加がみられた。 ▲生活する中で、自己中心的に行動してしまい、モラルやマナー・ルールを尊重した行動ができない生徒が多かった。	
	③全校体制と共通行動の確立 ・年次を中心とした指導体制の確立と、全職員の共通理解・統一行動を図る。	③年次会等での情報交換 ③企画委員会主事会、生徒指導委員会等での情報交換	③生徒の状況を年次主任や担任、教育相談とうまく情報共有ができ、問題行動やいじめに発展するような事案については早期に対応することができた。	B	○発達障がいと疑われるよう	
	④安心・安全な学校作り ・自分とは違う個性を認め、お互いを尊重できる生徒の育成を図ると共に、家庭や関係諸機関との連携を深め、安心・安全な学校づくりに努める。	④生徒の学校生活アンケート ④関係諸機関との連携	④毎日定期的に校内巡回指導を実施できた。 ④学校生活アンケートから問題を抱える生徒については個別に対応できた。	B		

					な生徒に対する対応のしかたについて、職員研修などを通し、全職員の共通理解と統一行動が図れるようになってきた。
教育相談	①生徒の人権を守り、それぞれが描く将来の自己実現に向け、安心して学び、豊かな高校生活を享受できる環境を築き守る。	①担任と生徒との面談日の設定 ①個別の支援計画・指導計画の作成。 ①生活アンケート調査の実施分析	①春と秋の2回にわたって、担任と生徒との面談の設定を行うことができた。 ①中学より個別の支援計画を引き継いだ生徒について、生徒や保護者の希望に応じて作成することができた。 ①7月、10月、1月の3回にわたって生活アンケートを実施し、生徒がいじめについて悩んでいないかどうかの把握に努めた。今年度は結果分析を生徒個人単位で行い、結果を年次で共有し、速やかに対応を行った。	B	▲個別の支援計画・指導計画の作成について、教科担に対象生徒の状況を聞き取り、担任が作成したが、全職員レベルでの支援は十分できていない。 ○生活アンケートを年3回実施し、個人単位で結果分析を行った。具体的な実態把握ができた。 ○カウンセリング利用者の担任とカウンセラー、教育相談担当者とのコンサルテーションを行うことにより、生徒に合った対策を取ることができた。
	②生徒の状況を把握し、家庭や外部機関と連携・協力して、最も適切な支援ができる方策を考える。	②1年次でのテストバッテリーM2+検査の実施・分析 ②カウンセリングの実施 ②特別支援教育支援員との連携	②年次会でテストバッテリーM2+の分析結果について情報を共有することができた。 ②月1回の相談部だよりにより、カウンセリングの日程について周知できた。カウンセリング実施後は、カウンセラー・担任・関係職員とでコンサルテーションを行った。 ②特別支援教育支援員を要請した生徒と個別の教育支援計画を作成した生徒の状況を各教科担に聞き取り、支援員と連携して効果的な支援ができるようにした。	B	▲本人の苦手感によりカウンセリングが必要だと思われる生徒への実施ができない場合がある。紹介方法などを工夫したい。 ○本校生徒の実態に即した生徒支援に必要な知識・基本的な対応法を学ぶことができた。
	③教員の共通理解を図り、全職員が同じ方針の下で生徒の支援ができるよう、資質の向上に向けた研修を実施する。	① 職員教育相談研修の実施	③入学生の状況に即して6月に「場面緘黙研修会」、8月に本校の具体的な事例を基にした「発達障がい研修会」の2度の職員研修会を実施した。	A	○研修を早めに行い、「場面緘黙」の生徒の対応にいかすことができた。 ▲いろいろな問題を抱えている生徒がいるので、すべての生徒への対応が難しい状況である。
保健厚生	①健康の保持増進 ・こころと体の健康の保持増進に配慮し、規則正しい生活が送られるようにする。 ・安全で健康的な食について考えさせるとともに、食事のマナーを身に付けさせる。	①感染症発生状況 ①検査・検診結果 ①保健室利用状況データ ①体測定結果 ①食育アンケート ①食育指導	①毎月の保健だより発行に加え、換気・咳エチケット等の疾病予防の呼びかけを実施した。 ①健康診断未受診者0を目指し、指導・呼びかけを行った。(休退学除く) ①保健室利用者505件(昨年より-200人)全年次において肥満の割合が高い。 ①食育指導をテーマに保健だよりの発行や朔陵祭企画を実施した。	A	○感染症予防の啓発活動を実施し、感染症の蔓延を予防した。 ○健康診断未受診者0達成 ▲保健室来室者数は減少したが、欠席してしまう生徒も多いため、担任等と連携して対応したい。 ▲肥満が多い。また、運動不

			①毎日の給食時間を利用し、食育・食事マナーを指導した。 ②医療費申請昨年度12件→今年度12件 ②命を守る避難訓練を年3回にし、より実践的に行った。	A	足が原因であるケガが多い。来年度も食育と運動を呼びかけていきたい。 ○給食を通してコミュニケーションがとれた。 ○給食の時間に健康観察をおこなった。 ○危機管理・防災意識の向上に向けて引き続き指導していきたい。 ▲チャドクガが大量発生した。対策をしていきたい。	A
	② 安全教育の充実 ・ルールやマナーといった社会常識を身に付けさせるとともに事故防止を図る。 ③ 校内美化 ・学習に適した環境づくりを通して、美化意識の高揚に努めるとともに、全員で美しい学校をつくる。	②事故発生件数 ②傷害状況 ②医療費給付状況 ③環境衛生検査結果 ③校内安全点検結果 ③生徒・職員へのアンケート	③教室換気の呼びかけができた。 ③定期的な安全点検・修繕により、より安全な教育環境が整備された。 ③教室の汚れ落としを徹底し、ワックスがけを実施した。	A		
渉 外	①生徒の健全育成のため、家庭や地域との連携を深める。	①育友会と生徒が一体となって取り組む諸活動。 ①安全振興会便りや、家庭向けリーフレットの配布。 ①本部役員によるあいさつ運動。	①本部役員を中心とした挨拶運動を、年合計9日間取り組んだ。生徒への声かけだけでなく、異なる部の生徒の実態を知ることができた。 ①地区理事校として、指導者研修会を運営し、地域のPTA組織との連携の主軸として活動できた。	A	○「朔陵祭」など、多くの会員の方がボランティアとして参加してくださった。生徒会と連携をし、新メニュー導入を行うなど、他のセクションとの連携が積極的に行えた。	A
	②学校行事や育友会行事の持ち方を考え、PR活動を積極的に展開する。	②朔陵祭バザーや展示企画への参加を通して、保護者同士の連携をはかる。 ②PTA活動の広報誌である朔陵だよりの充実。	②本部役員、母親委員、一般保護者、役員OBらが一体となり、両日で延べ70名程の参加があった。また、事前の打ち合わせに一般保護者も参加していただくようにし、PR活動の評価に役立てた。 ②生徒の学校行事の写真を多く配置し、ビジュアルに訴える、わかりやすい朔陵だよりの作成に取り組めた。	B	○育友会の広報誌が年2回発行され、生徒の生き生きとして活動する姿を会員に発信できた。 ○人と繋がることを意識したPTA活動をテーマにPTフォーラム活動に取り組み、その成果を発表することができた。	
	③育友会組織の研究を進めるとともに、親子間や保護者間の心の交流が図れる諸活動を積極的に実践する。	③年間五回の育友会役員会を通して、育友会活動の展開を協議、実践していく。 ③PTフォーラムの活動に積極的に取り組み、その成果を発表する。	③本部役員会と母親委員会に分かれていた会議の形態を改め、同時開催にしより密接な取り組みが可能になった。 ③定時制高校のPTA活動の在り方を11月の県PTフォーラム大会で報告した。会場からの質問もあり、一定の評価を得ることができた。	A	○同窓会組織が自ら、効率的な組織運営が行えるようになってきた。ウェブ会議など、若い感性を活かした積極的な取り組みがなされるようになった。 ▲保護者の校外進路研修会の参加者が年々減少傾向にある、今後の実施方法や時期、見学先の再考の必要がある。	
	④創立10周年を終え、同窓会の定期総会を開催できるよう進めていく。	④同窓会組織の効率的な運営と、学校行事への参加・連携の促進。	④同窓会組織の名称を変更するなど、同窓会役員の意識向上に務めることができた。 ④遠隔地の理事が会議に参加出来るように、理事会の様子をビデオチャット方式で配信するなどの工夫がなされた。 ④卒業生と語る会の講師として、理事を派遣するなど、学校行事への関わ	A	▲本部役員の選考や、会議の持ち方など、保護者の負担を極力回避する組織運営が求められる。	

			りを深めることができた。			
図書・情報	①図書資料の適切な選定と購入を進め、蔵書構成の充実を図る。	①生徒や教職員・各教科のリクエストを迅速に集計・対応。	①「図書館だより」（毎月発行）「館報あざみ」（年2回）等を通じての図書啓発活動。内容面の一層の充実を図った。	A	【図書】 ○年間を通して通信等を利用した啓発活動ができた。 ○タイムリーな企画展示ができた。 ▲昨年度よりも、図書の貸出冊数が減少した。 【情報】 ▲セキュリティ・チェックの問題形式が変更となり不合格者が増えた。 (再試の実施)	A
	②「図書館だより」発行や館内展示の工夫により、生徒の図書館と読書への興味関心を高める。	②生徒や教職員の来館数・貸出冊数の集計、分析を適宜に行う。 ②校内読書感想文	②新刊・新着図書の紹介・案内 ②企画展示 ②「先生のおススメ本」紹介 ②「図書委員のおススメ本」紹介	A		
	③「朔陵祭」参加や芸術鑑賞会を通して芸術や文化に対する豊かな感性を育む。	③芸術鑑賞生徒アンケートの結果活用。	③図書委員会の活動 ③鑑賞作品のPRと生徒感想による振り返り	A		
	④図書館システムの構築作業を円滑に進める。	④適宜、蔵書管理のPC化への移行状況をチェックする。	④通常業務と並行して、蔵書データをPC入力した。	A		
	⑤職員セキュリティ・プライバシー・著作権等に関する意識の向上を図る。	⑤毎月のセキュリティ・チェックの実施し、不合格者には再試を課す。	⑤毎月セキュリティ・チェックを実施した。（9月より隔月）	B		

## II 学校関係者評価 実施年月日：平成30年1月17日

- ・生徒は総じて明るく、伸び伸びとしており、生徒の主体性を引き出そうとする授業であった。
- ・泉町河合地区で東濃フロンティアの生徒が問題を起こすことはほとんどない。出会う生徒は総じて元気がないように思える。元気な挨拶ができればよい。
- ・中学校までの不登校経験を克服している生徒が多く、先生方の細やかな指導が活かされている。
- ・よい意味でも悪い意味でも先生と生徒の距離が近いと感じる。丁寧に授業をしていただいているが、反面、生徒が甘えてしまわないか心配である。
- ・学校のホームページの更新について改善されている。今後は内容についても検討し、更に充実させてほしい。
- ・学校全体の清掃が行き届いており、落ち着いているように感じる。
- ・ソーシャルスキルの取組と同時に、授業の中でも生徒同士が交流できるように、机列を円のようにする等の工夫をするとよいのではないかな。
- ・社会人講座について、他校では生徒との合同実施で成果を挙げているようだ。東濃フロンティアでも以前は「情報」や「英語」などで実施していたが、条件が整えば実施してもよいのではないかな。

## 12 来年度に向けての改善方策案

(教務)	・基礎基本の定着を目指した授業（ユニバーサルデザイン）の推進 ・生涯にわたって学ぶ忍耐力の育成 ・多様化する生徒への個別支援の充実
(進路)	・個に応じた進路指導のさらなる充実 ・キャリアガイダンスの充実と改善
(生徒指導)	・インターンシップ（就職体験）の効果的な実施方法の研究 ・ネット犯罪・トラブルの防止と礼儀やマナーの改善（規範意識の高揚） ・予防的生徒指導の研究と実践（積極的生徒指導の推進）
(教育相談)	・SCによるカウンセリング利用の周知、保護者への積極的な啓発活動 ・個別の支援計画の有効的活用
(保健厚生)	・ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた良好な人間関係の構築 ・各種検診の事後処置の徹底 ・非常変災時に各自で速やかに行動できる実践力を高める ・命を守る訓練を通じた人命尊重の教育
(渉外)	・PTA活動、同窓会活動の活性化
(図書・情報)	・生徒・保護者へ図書館の情報を発信し、読書への意識を高める ・DVDライブラリーや図書館PCの有効活用